



# 保育サポーターバンク通信

2018年(平成30年)11月発行 一般社団法人山口県医師会 〒753-0814 山口市吉敷下東3-1-1 TEL090-9502-3715 FAX083-922-2527



## 保育サポーターバンク10年目を迎えて

山口県医師会男女共同参画部会長 黒川 典枝

平成21年に開設された保育サポーターバンクも、めでたく運営10年目を迎えました。この間多くの皆様にご支援・ご協力をいただき、つつがなく運営できたことを大変ありがたく思っています。

一方で、丁医大の医学部入試における女子減点問題は、医療界において男女共同参画を実現させることがいかに困難か、浮き彫りにする事件であったと思います。現在、文部科学省が全国の医学部医学科を対象に実施している調査は10月末に最終結果が公表されるようですが、まずは現状を正しく把握した情報

であることを願います。一女性医師として、また、男女共同参画の実現にエネルギーを注いできた者として、現実を受け止め、どう解決していけばいいのか、しっかりと考えていきたいと思っています。

こうした厳しい医療現場に身をおきながら、仕事と子育てを両立しようと頑張っている医師の皆さんを少しでも支えたいと始まった保育サポーターバンクです。バンク立ち上げの際に全面的に支援してくださった当時の山口県医師会長の木下敬介先生が本年8月に逝去されました。ご冥福を心からお祈りする



## 保育サポーターバンクへの大きな期待

山口県健康福祉部長 中野 恵

平素から、本県の健康福祉行政の推進に、格別の御理解と御協力をいただきまして、厚くお礼申し上げます。

さて、近年、全国的な趨勢として、医師全体に占める女性医師の割合が増加しています。が、本県でも同様の傾向がつかがわれ、特に、35歳未満の女性医師は、全国とほぼ同様に3割を超える状況となっています。

こうした状況を踏まえ、国の「医師の働き方改革に関する検討会」が本年2月に示した中間的な論点整理等においても、女性医師に関するワーク・ライフ・バランスの実現やそ

のための支援の必要性が論点として掲げられています。

ご案内のとおり、女性医師の方々は、結婚、出産・子育てといったライフイベントを通じ、仕事と子育てとの両立が求められることから、子育て中であっても安心して働き続けられる環境の整備は極めて重要です。

このため、県としては、女性医師を対象とした様々な支援を行う中でも、子育てとの両立支援には特に力を注いでおり、多種多様なニーズにお応えするため、相談窓口の設置を県医師会に委託し、専任の保育相談員を配置

とともに、先生の遺してくれた志を受け継いで、しっかりとバンクの運営を継続し発展させていきたいと思っています。

多くの方の思いが詰まった保育サポーターバンクです。保育サポーターの皆様、今後ともどうぞよろしく願います。また、子育て中の医師の皆様、どうぞお気軽に保育相談員までご連絡いただき、このバンクを大いに利用してください。お待ちしております。



しているところです。

この保育相談窓口と、県医師会の保育サポーターバンクとの連携によるきめ細かな支援は、利用者の皆様からも大変高い評価をいただいているところであり、今後も、保育サポーターバンクの更なる充実に期待しています。

女性医師の皆様方におかれては、子育てに関する多くの心配や不安な事柄があるうかと思いますが、この相談窓口や保育サポーターを御利用いただき、安心して本県での医療現場で御活躍されますことを願っています。

最後に、保育サポーターバンクの今後益々の御発展を祈念するとともに、関係者の方々の感謝を申し上げ、御挨拶とさせていただきます。

### 第9回 保育サポーター研修会

9回目となる研修会を本年3月11日(日)に山口市の県医師会会議室で開催し、33名の保育サポーターの参加がありました。

保育サポーターバンクの黒川運営委員長から簡単なバンクの説明がなされた後、新しい試みとして、2名の保育サポーターの方に、経験談をお話しいただきました。

岩国短期大学教授の山縣明人先生からの「ワクワクドキドキの子育て論」と題するご講演は、先生のギター伴奏で参加者全員の歌から始まり、参加者の緊張もほぐれて、時代とともに変化する子育ての環境に対応するお話に引き込まれたあつという間の1時間でした。終了後「楽しくてためになるお話でした。」と多くの方から感想をいただきました。

午後からは全体会とし、黒川バンク運営委員長からの連絡事項(研修会への交通費補助・守秘義務について等)の説明があり、「しつけについて」の意見交換も行いました。

次回も、研修会に対する要望も踏まえながら有意義な研修会になるよう企画しますので、多くの方のご参加をお願いします。



### 平成29年度 保育サポーター研修会 講演抄録

## ワクワクドキドキの子育て論 ～子どもの心と ひびきあうための 関わり方～

岩国短期大学幼児教育科  
教授 山縣明人 先生



く上で何が必要であるかを伝えようと同時に、その新しい世界観を以て支援されているお子様の人間性の陶冶にいかに関わり立っているかをお話しした次第です。

まず、20世紀は成長社会であり、そこでの情報は一つの正解を求めて処理されることが大切であるとされます。すなわち、「みんな一緒」の世の中です。

一方、21世紀は成熟社会であり、そこでの情報は編集をされて「それぞれ一人ひとり」として意味あるものを大切にする世界となります。その際に、情報の編集で大切なことは多様なものをつなげていく事

です。また編集されたものが「いいね!」と共感されるようなつながり方をすることが求められます。

そうなる、ただつなげていく編集だけでなく、自分からつなげる行動力がなくては「生きる力」となりません。それは、私たちが何事に対してもワクワクドキドキする感性があれば発揮することができるので



子育ての環境は時代と共に大きく

変わりました。男女雇用均等法の施行より今日の働き方改革まで、女性の職場での働き方は大きく様変わりしました。そのような中で、女性医師の子育て環境は益々厳しいものになってきています。そこに保育サポーターさんの支援があることは誠に好ましい限りであると思います。今回は、保育サポーターさんが、一人の人間として21世紀を生きしてい

### 保育者は魔術師

保育者は、幼児の生きる力を人や物のいのちとつなぐ役割をします。そのために保育者は、幼児がワクワクドキドキする遊びに誘います。すると、幼児はいのちの光と熱を発するのです。保育者が魔術師である理由はそこにあります。その原理と方法をお伝えしたいと思います。

### 保育者五戒

- 一、目の輝きぐあいを見守っているか。
- 一、心の鼓動を聴こうとしているか。
- 一、指先を見落としていないか。
- 一、ことばの音色を聞きつけているか。
- 一、人なつっこさに応えているか。



す。

では、どのようにすればワクワクドキドキの「生きる力」を自分で生み出していくことができるのでしょうか。答は簡単で、「遊ぶ」ということです。保育者が一番に大切にしているのが、子供が主体的に遊ぶという行為です。21世紀という時代は、しっかりと自分の遊び場で自由に遊んだ子供の生きる力が新たな「それぞれ一人ひとり」の創造力を生み出すといつて過言ではありません。

その意味で、子供は遊ぶ力のない人に魅力を感じません。たとえ保育サポーターさんでも子供の安心安全を保証した上で何を求められるかと言えば、みずからがワクワクドキドキした気持ちで子供と遊ぶ力、つながらる力を発揮することではないでしょうか。

自らの生き方に「素直」な感性を認めて、自分の心の琴線に触れるワ



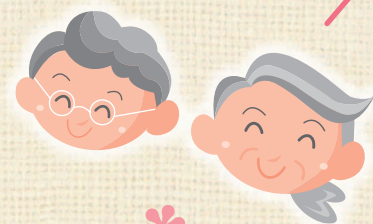
クワクドキドキするものとなつながらる日常体験が必要なのだと思います。その延長上にお預かりしているお子さんがいると思えば、このボランティアは、至福の時間を皆さんの人生にもたらすことになります。

最初に歌や手遊びをして講演を始めました。そして、現代は1973年に始まり、2015年に終わるといふピーター・ドラッカーの言葉をお伝えしましたが、実にこの預言とも言うべき世界観をお伝えした理由は、見て聞いて感じる感性が時代の変化を教えたと言つことを分かって頂くためでした。科学の論理的な判断だけでは行き詰まってきた現代において、芸術的感性である美意識が時代を切り開こうとしています。ワクワクドキドキの感性が美意識を生み出します。どうぞ、瑞々しい感性を持つ子供と共に美意識を高めて感動ある美しい人生を豊かに生きて頂きたいと思えます。

### 保育相談員より一言

保育相談員連絡先  
TEL 090-9502-3715

### サポーターさんへ



### 住所や連絡先の電話番号の変更があった場合は、必ず相談員へ連絡をお願いします。

(連絡がとれなくなった方は登録を解除させていただきます。)



### 医師のみなさんへ

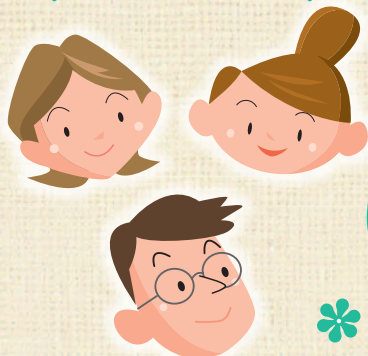
研修会でもご連絡しましたが、「守秘義務」について今一度認識していただき、「個人情報の漏えい」のないようお気をつけください。(スマホでの撮影も必ず医師に許可をとっていただくようお願いいたします。)

OK?



サポートを終了する場合は、サポーターさんにはもちろん、相談員にも終了の連絡をお願いします。(保険の更新の関係で把握が必要です。)

サポーターの車での送迎をお願いしている場合、交通事故によるものは医師会の保険の対象外です。同乗するお子様への保障は、ご自身で傷害保険をかけるなどの手当てをお願いいたします。



## 利用者の声 (平成30年9月)

## ● M先生 (産婦人科) 30代

現在2人の子どもを育てながら産婦人科医をしています。第2子出産後の職場復帰にあたり、子どもの送り迎えをしてくださる方を探していて医師会の保育サポーターバンクに出会いました。引き受けて下さる方がいるだろうか、子どもが慣れてくれるだろうかと最初は不安でしたが、保育相談員の方が子どもの性格なども併せて詳細にお話を聞いて下さり、お二人ものサポーターさんをお願いすることができました。お二人とも子どもの気持ちをとて上手にくみ取って下さり、子どもも「今日は〇〇さんと幼稚園に行くんだよ」と毎日楽しそうに出かけていきます。送り届けた後には今日の様子をメールやラインで連絡して下さい、私自身も安心して仕事に集中することができています。

今回仕事に戻ってこられたのは家族や職場のスタッフの方々の理解、そして相談に乗っ



## サポートを受けられた方から感謝の声が寄せられています (順不同)

て頂いた保育相談員の方、サポーターの方々のご支援があるからです。今の生活はサポーターさんなしでは成り立ちません。本当に心から感謝申し上げます。これからもどうぞ宜しくお願い致します。



## ● S先生 (麻酔科) 40代

私は市中病院で常勤医として働いています。サポートをお願いするようになってきたきっかけは、今春から当直を始めたことでした。

主人も医師で忙しく、近くに頼れる者もおらず困っていたところ、信頼できるサポーターさんと出会うことができました。

現在は小学一年生の息子を、月に数回習い事に送ってもらっています。私が当直の日などにも預かってもらう予定ですが、今のところ主人が遅い時には中学生の娘が面倒をみてくれます。でも、もしもの時に頼れる方がいるというのは本当に心強いことです。

やんちゃ息子がサポーターさんを困ら



せないか心配でしたが、いつも楽しくお話などしているようで安心しています。息子の気持ちに寄り添ったり、様子を報告して下さったりするので、娘の時に利用したタクシーによる送迎とはまた違った良さを感じています。

私はこれまでもサポーターバンクの利用を考えたことがありますが、保育相談員さんはその都度親身になって下さいました。このようなサポートがあることに、またサポートして下さる方々に心から感謝しています。

仕事と家庭の両立は大変ですが、サポーターバンクは心強い味方になってくれると思います。困った時には、まずは相談してみることをお勧めします。



サポーターさんの声 (平成30年9月 順不同)

◆ Tさん (山陽小野田市・44歳)

3歳のお子様を持つ女医さんとのご縁をいただいていたから8か月くらいになりました。

私のサポート内容は、女医さんがお子様とかかわる時間を増やしたいということとで、主として、週2回1時間程度女医さん宅での家事支援(掃除・洗濯)です。お子様が発熱した時等、突発時のサポートも対応予定ですが、今のところその機会はなく、元気に過ごされています。

以前勤めていた保育園で、働くお母さんに笑顔で子育てをして欲しいと、お母さんの心に寄り添うケアにも力を入れていたので、保育というサポートではなくこつこつとしたサポートも医師会に限らずこれから女性の社会進出が進む中、必要になってくるのではないかと思います。



女医さんとは、LINEで連絡を取り合い、少し余裕ができましたと言っていただけたり、3

歳のお子様が帰宅されると「お部屋がきれい！」と喜んでくれるなどお聞きするとうれしく思います。

また、女医さんは収納の仕方がとてもお上手で参考になるので、我が家でも取り入れさせてもらったりして楽しくお掃除させていただいております。

働く女性は、仕事に子育てに家事に本当に毎日大変だと思えます。少しでも家事の負担が減り、お子様とかかわる時間が増えてご家族が笑顔で過ごされますように、これからも微力ではありますがサポートさせていただきます。ただきたいと思えます。



◆ Kさん (宇部市・70歳)

早いものでサポートを始めて2年余りが過ぎました。きっかけは、新聞紙面で女医さんの子育て支援者を募集していることを知ったことです。私が子育て中だった頃、近くに頼れる知人がいなくて不安だったこと、仕事を持ってみて家庭との両立に悩んだことを思

い出しました。また、10年ほど前、乳がん闘病中は、女医さんのお世話になり、医師の仕事が心身共に激務だということを知近で見ることになりました。そんな理由から私にできるお手伝いをしたいと思うようになり、登録して半年ほどして依頼を受けました。

週3日、先生のお宅に出向いて3時間ほど家事を行います。夕食の用意と部屋の片づけ、掃除等です。サポートを始めた時には2才のお子さんと二人目出産予定の妊婦さんでした。今では、4才・1才の元気な男の子のママのサポートです。

食事作りは、大人、幼児、乳児の家族全員がおいしく食べられるように、マンネリにならないように気を配るので頭の中は常にフル回転です。お子さんが、パクパク食べて完食しましたと報告していただいた時は、嬉しくてますます意欲がわいてきます。できるだけ野菜を多く、季節感のある食事を提供したいと思っています。



知っていると役立つ  
医学まめ知識

おしっこが近い

かわむら小児科  
河村 一郎



おしっこが近い原因としては、心因性のもの、膀胱(ぼうこう)が関係するもの、多尿によるものとあります。

心因性のものであれば、今行ったかと思えばまたトイレにかけこむ、ちょっとずつしかおしっこは出ない、おしっこの時に痛みはない、おしっこの検査をしても異常が見あたらないといった特徴があります。これはじん臓や膀胱の病気ではなくて緊張した子どもの心の現れです。幼稚園でお遊戯会が近づいた、責任ある役割を任せられた、ピアノの発表会が近づいた、とりまく環境が変わったなど何かきっかけがあったりします。昼間だけで夜はない場合は強く疑われます。「また行くの?」と注意してしまうとさらに緊張が高まって症状がひどくなります。何かストレスになっているものはないか、お子さんの立場になって考えてみましょう。何回行こうが知らんぷりしていただくと、そのうちしだいに治ります。

おしっこする時に痛がる、残尿感がある、おしっこが赤いなどの症状がある場合には膀胱炎が疑われます。おしっこの検査でわかります。膀胱炎には細菌性のものとコクサッキーウイルスやアデノウイルスなどウイルス性のものがあります。細菌性であれば抗菌薬(こうきんやく)の内服でよくなっていきます。いつもよりも多めに水分を摂ってもらい、膀胱を洗い流すような感じにしようといいでしょ。

昼間でもおしっこをもらしてしまう、パンツがいつも濡れているという場合には膀胱の機能が不十分な不安定膀胱、神経因性膀胱などがあります。

おしっこの量が非常に多い場合には、イオン飲料などを普段から飲んでいて習慣的にたくさん水分を飲むようになっている習慣性多飲(たいん)、ホルモンやじん臓の異常でうすいおしっこが多量に出てしまう尿崩症(にょうほうしょう)や糖尿病などの病気のことがあります。

おしっこが近い場合(頻尿)に考えられる病気を表に示します。

表 頻尿をきたす病気

1. 心因性のも の 子どもの心の緊張からきます
2. 膀胱が関係するもの
  - 1) 膀胱への刺激によるもの 膀胱炎など
  - 2) 残尿がある 後部尿道弁、神経因性膀胱、膀胱尿管逆流など
  - 3) 膀胱の大きさが小さい 膀胱の腫瘍など
  - 4) 排尿反射(おしっこがしたいと感じること)の障害 不安定膀胱など
3. 多尿によるもの 糖尿病、尿崩症、慢性腎不全、習慣性多飲など

予告

平成30年度 研修会日程

サポーターの皆様へは改めてご案内を差し上げますが、下記のとおり開催予定です。万障繰り合わせてご出席くださるようお願いいたします。

日 時：平成 31 年 3 月 17 日 (日)  
10 時から 13 時

場 所：県医師会会議室  
(山口市吉敷 山口県総合保健会館内)

講 演：講師…三田尻病院院長  
豊田秀二 先生  
演題…「小児救急について」(演題未定)

その他：サポート事例の紹介、昼食懇談会



DATA 保育サポーター登録者数

(平成 30 年 10 月 1 日現在)  
( ) 内は活動中

地域別	人	地域別	人
下関市	20 (4)	光市	4 (1)
宇部市	29 (12)	長門市	2 (0)
山口市	19 (3)	柳井市	2 (0)
萩市	3 (0)	美祢市	1 (0)
防府市	15 (5)	周南市	16 (3)
下松市	4 (1)	山陽小野田市	9 (1)
岩国市	5 (0)	熊毛郡	1 (0)
大島郡	1 (0)		
		合計	131(30)

サポートの態様

利用中医師 24 名のうち

- 定期的支援 13
- 不定期支援 11
- 家事支援を含むもの 5



編集後記

あるサポーターさんからの報告。「定期的なサポートは終了しましたが、メールやラインで近況報告をしながら、ママ先生と個人的にお付き合いが続いています。」とのこと。最近ではマッチングが難しいケースもあつた中で、「このボランティアを通じていい出会いがあった」と思ってくださることに喜びを感じます。今回も原稿依頼に応じてくださいました皆様、ありがとうございました。(保育相談員)

保育サポーター  
募集中



引き続き「保育サポーター」を募集しています!

県医師会では、引き続き保育サポーターを募集しています。みなさまのお知り合いにお声かけを是非よろしくお願ひします。詳細はお問ひ合わせください。

【問ひ合わせ先】

山口県医師会 女性医師保育相談員  
TEL 090-9502-3715(9:00~17:00)  
メールアドレス hoiku@yamaguchi.med.or.jp  
FAX 083-922-2527